

議会報告 未来への扉

まつばやし孝之の議会通信 第35号 2022/4

発行：まつばやし孝之事務所

〒699-1106 雲南市加茂町加茂中1273-2 Tel.0854-49-6256 Fax.0854-49-8881



デジタル版
はこちら

公式ホームページ user.kkm.ne.jp/larks/



令和4年 雲南市議会 3月定例会

会期 令和4年2月28日(月)～3月22日(木) 23日間

令和4年度は「昨年7月に発生した豪雨災害と、いまだ終息の兆しが見えない新型コロナウイルスからの復興」をキーワードとし、「復興元年」と位置付けるとの所信表明がありました。①一般会計予算総額は315億3千万円(前年比15.2%増)で、過去最大規模の当初予算となりました。要因は言うまでもなく「災害復旧とコロナ対策」であります。②産業建設常任委員会所管で特筆すべきは、①昨年12月定例会の一般質問で取上げました③電子地域通貨導入支援事業であります。新型コロナウイルス感染症の長期化による市内経済の低迷に対し、国も進めるキャッシュレス決済・デジタル化への対応を含め、雲南市商工会が実施する電子地域通貨事業へ支援をするものです。プレミアム分は

3000万円を想定し、市内経済の好循環に大きく寄与されると期待しています。実際に導入されるまでに、市民の皆様にわかりやすい説明が必要であるとともに、チャージ端末の配置、金融機関との連携、更には導入事業者の換金手数料等、しっかりと意見聴取され進めるよう求めました。④直物流改革実証事業は、市長の選挙公約であった兼業農家や小規模農業者の所得向上策として、三刀屋鍋山地区において自主組織との連携事業として本年度に実証実験事業を開始するものです。当地区に特化した事業の流れも必要ですが、全市事業としての成果が重要であり、注視していく必要があります。

第1回 臨時会 3月28日～30日(3日間)(島根原発2号機再稼働について)

島根原発2号機の再稼働に対し、議会の意見を問うものです。継続審査となっていた原発反対の請願陳情に対し、3月議会最終日に賛成少数で否決し結審したこと等を踏まえ、市長から再稼働やむなしとの方向性が示され、それに対し反対討論3名、賛成討論4名が立ち、結果…賛成14名 反対4名で再稼働を容認することとなりました。

賛成	14人
反対	4人
棄権	0人

松林賛成討論…一部抜粋…

日本政府は令和2年に2050年カーボンニュートラル(温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること)を目指すことを宣言し「省エネルギーを徹底し、再生可能エネルギーを最大限導入するとともに安全最優先で原子力政策を進めることで安定的なエネルギー供給を確立する」として、エネルギー基本計画においても原子力発電は長期的なエネルギー需要構造の安定性に寄与する重要なベースロード電源と位置付けている。

エネルギーは国民の暮らしや経済活動を支える重要な要素であり、環境負荷の少ない電力の安定供給を図ることが「暮らしと経済の健全な発展」のためには必要である。

「原発に頼らないエネルギー政策」が理想ではあるが、現実の社会構造や地球環境を考える上で、**安全性の確保を大前提**として「カーボンニュートラルの実現」と「市民県民の暮らしと経済基盤を支える電力の安定供給」のために島根原子力発電所2号機の再稼働はやむを得ない。と賛成討論を行いました。

一般質問

3月議会では3会派による代表質問と13名が一般質問に登壇しました。

質問1 …市長が目指す雲南市の未来像は…

はじめに

就任から1年、石飛カラーが反映される当初予算が示され、令和4年度はコロナ禍からの経済回復や災害復旧を進め、地域の活力を取り戻す「復興元年」となるよう、市民の声に耳を傾けながら市民本意の行政運営を展開すると表明されました。

問 市民本意の行政運営とはどのようなスタンスか。

答 限られた予算と人員の中で、市民目線に立ち、前例や習慣にとらわれることなく全体の利益を高めていく行政運営を推進する。

問 災害復興とコロナ対策は粛々と進め、元の日常を取り戻すための、言わば「守り」の施策である。石飛カラーの「攻め」の施策は何か。

答 ①若者世代の定住、Uターンに有効な住宅施策の強化。②周辺地域発展のための農村地域サポート。③産直物流改革実証事業等のシステム開発。④スポーツ、文化活動を担う仕組みの構築等が「攻め」の施策である。

問 若者Uターン策として、奨学金返済助成制度を提案する。給付型奨学金の導入もさることながら、貸与型の返済金の一部をUターンされる時に助成する制度の創設。高校生をはじめ小中学生を持つ親にとっても、大きな魅力であるとともに、現在大学に就学中または卒業して都会地で働く若者のUターンのきっかけ策としても有効であるが如何か。

答 素晴らしい視点での提案と認識する。制度の効果や費用等について研究し、検討を進める。

問 行政運営は継続から始まり、少しずつの改革や変革により市民福祉の向上が実ると考える。トップが変わるごとに全てがリセットされ、真っ白なキャンバスに絵を描くような訳にはいかない。市民は市長から明確な方針が示され、目指す雲南市の行方、未来をわかりやすく表現されることを望んでいる。市長はどんな雲南市を目指し、市民にどのような未来を示すのか。

答 人口減少社会を乗り越え、街角に子どもの声が響き、誰もが生き生きと明るく安心して暮らせる雲南市を目指す。そのためには地域力、市民力の維持、都市部にはない心豊かに暮らせる環境づくりや地域資源の活用等を着実に進める。



質問2 …コロナ禍の経済対策…

はじめに

年末商戦で一旦持ち直しかけた経済活動は、オミクロン株による蔓延防止等重点措置が発動され、その影響は飲食宿泊業に留まらずあらゆる業種において大打撃となっている。

問 蔓延防止等重点措置が明けても経済は好転していない上に、原油価格の高騰によりコスト増は避けられない状況である。国や県の支援策が用意はされているものの、それでは救えない事業者も少なくない。今こそ小規模事業者の視点に立ち、耳

を傾け、きめ細やかな支援策が必要ではないか。

答 令和3年度は6つのコロナ対策事業を実施したが、終息が見えない中、今後も商工会と情報を共有し、有効な施策が展開できるよう工夫する。

問 建築業界では建築資材の高騰もあり、民間住宅等の新築やリフォームの流れが悪化し、仕事がない…との悲痛な声を聴く。少額であっても切れ目なく仕事があることは、事業者にとって何よりの救いである。公共施設等小規模修繕事業は当初予算で3000万円を確保されているが、当事業の早期発注、更には年度中途での追加発注も含め、あらゆる建築現場事業者の体力が落ちないように進めることが重要ではないか。

答 市内事業者の存続がいかに重要かということは、災害をもってさらに痛感した。安定した事業発注、双方にとってプラスとなるような事業の進め方を実施する。

問 日々のコロナ情報は、保健所管内別と市町村別に発表され分かりづらく情報が錯綜しやすい状況である。今は、学校や保育施設、福祉施設での感染が多くなっていることから、発生地区を示すことで対策がよりピンポイントで強化できるとともに、経済活動に対して市全域の影響にならないという利点もある。校名や施設名を公表されている県や市もあり、公表の仕方を検討する時期に来ているのではないか。

答 公表の判断は県がしていることから、感染対策上、施設名やエリアを示す必要がある場合は県に意見を求めている。

まとめ

コロナが始まった頃とは情勢が大きく異なり、情報を示さないことがマイナスに繋がることも多々あるのが現状です。公表することで強固な対策が講じられると同時に、経済活動や社会活動を止めないことがアフターコロナでは必要となると意見しました。

質問3 …市長の教育方針…

はじめに

児童生徒の減少は避けられないことから、学校の規模は縮小傾向になることは言うまでもありません。小規模校ならではのメリットも十分考えられますが、集団生活やコミュニケーションの経験値においてはマイナス要素も少なくありません。義務教育課程において、一定程度の人数による学校生活を経験することが重要ではないかと考えます。

問 学校運営の観点から小中学校の統廃合について市長のスタンスは。

答 現状維持を基本とする。

問 小中一貫校、義務教育学校についての考えは。

答 一貫した方針に基づき教育がなされることが基本と認識していることから、義務教育学校も地域としての選択肢の一つと考える。

まとめ

義務教育学校を進めるのであれば、対象地区の幅広いジャンルの方と共に、研究会、検討会そして準備会といった着実な段階を経た議論を重ね、地域とともに創る学校という大きなテーマとポリシーが必要と申し述べました。

問 速水元市長は、雲南3つの高校を市立高校レベルと位置づけ、魅力化を図るとされたが石飛市長はどのようなスタンスで臨むのか。

答 未来の雲南市を担う人材育成の最高教育機関であり、雲南コミュニティハイスクールコンソーシアムを活用し、魅力化を進める。



問 高校の発展こそ、人材育成の根幹であり、担い手人材の輩出元としての存在感が示されると考える。学舎として一定程度のスケールがなければ魅力化は図れない。雲南高校としてまずはキャンパス制を取り、いずれ将来を見据えた雲南高校とし

てのビジョンが必要ではないか。

答 市内高校の在り方は、長期的な視点では大きな課題であるが、当面は3高校魅力化に磨きをかけることを主におき、将来については引き続き議論する。

まとめ

私が高校魅力化を提案してから既に8年経過しました。

…市内高校への志願者が増えないのはなぜでしょう…

分かりやすい選択肢を示さないと選ばれないのではないのでしょうか。

…例えば卒業生が毎年のように東大や京大に進学できる学力、地元企業の即戦力となる就職に役立つコンテンツや資格の習得、また、部活動では野球は甲子園、サッカーは国立競技場、バレーは春高…

こうした目に見える選択肢を醸成することこそ魅力化の実現であると考えます。

そのためには一定規模の生徒数、クラス数という物理的条件が揃わなければ特化することは難しいのが実態です。

魅力化の成果は全国から雲南高校に行きたいと言ってもらえる高校にすることです。今やらなければならないことは、我々大人や、地域による、「大局的な視点による決断と結束」ではないのでしょうか。

未来人材の育成のために10年後20年後の雲南市の未来創造図をどう切り拓き、何を提供し何を残すのか。私は「市立雲南高校の創設」を目指すべきと申し述べ一般質問を終わりました。

議 | 員 | 発 | 議 |



3月3日に「ロシアによるウクライナ侵略を強く非難する決議」を議会運営委員会から発議し、全会一致で決議しました。

【決議文】一部抜粋

去る2月24日、ロシアはウクライナへの武力攻撃、侵略を開始した。国家の主権領土の一体性を侵害する国際法違反で国連憲章に反するものであり、断じて認められず、強く非難する。雲南市は「平和を」の都市宣言を掲げ恒久平和を世界に訴えている。日本政府および全世界が一体となって、世界平和の実現に取り組むよう強く訴える。

編集 後記



4月5日、待ちに待った「加茂交流センター」が完成しました。市内最大規模の6千人が対象の施設は広々とした会議スペースや調理室、シャワールームも完備され、災害時の指定避難所としての機能も網羅されています。工事期間中は小学生の通学や近隣住民の皆様には、色々ご迷惑を掛けました。また、施工事業者様におかれましても、街中での工事であることから様々なご配慮を頂いたことに感謝いたします。加茂町民の集いの場として、広く活用されるとともに、末永く愛される施設となるよう願った春爛漫の竣工式でした。

